



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)  
ニューズレター (2022年度 No.1)  
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆2022年度運営委員長からのご挨拶
- ◆FIT2022(第21回情報科学フォーラム)開催のご案内
- ◆HCGシンポジウム2022への投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (VNV)



2022年度運営委員長からのご挨拶

委員長  
渡辺 昌洋 (NTT)

2022年度のヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 運営委員長を務めさせていただきます NTT の渡辺昌洋です。どうぞよろしくお願いたします。私は NTT でヒューマンインタフェースの研究に取り組み、ユニバーサルデザイン、人間中心設計、デザイン思考を中心に研究を行ってきました。ヒューマンコミュニケーション基礎研究会の副委員長を務めて以来、HCG シンポジウムの運営など HCG の運営に取り組んできました。様々な方たちと様々な経験を積ませていただく機会を得て、とても感謝しています。今回、運営委員長として HCG の活動を盛り上げるため、微力ながら貢献したいと思います。

近年はコロナ禍で、親族も含め、人と自由に会うことができなくなり、大きなストレスを感じた方も多いのではないのでしょうか。人とのコミュニケーションの大切さを痛切に感じます。そんな中、遠隔コミュニケーション技術が日常的に活用されるようになり、ライフスタイルや働き方も大きく変わりました。ある部分では便利になり、また、ある部分では不便にもなりました。これまでの価値観も大きな転換を迫られています。

現代は不確実性の時代、複雑性の時代などと言われます。新たな社会を作るため、新しいアイデアを生むためには様々な分野の人の協業が不可欠です。HCG では以前から、心理、生理、医療、人文、社会、言語、教育、芸術など、様々な専門家が集まり、ヒューマンコミュニケーションに関する議論が行われてきました。学会では、限定された分野の専門家が集まるのが通常ですが、HCG のような分野横断的な集まりは非常に貴重であり、今後ますます重要になっていくと思います。

HCG の価値を持続的に提供し、さらに高めていくために、多様な人々がより集まりやすい HCG に向けて取り組みを進めます。HCG の仲間づくりを進めます。信学会の内外に向けて HCG の活動をわかりやすくアピールして、さらに多様な人が多く集い、交流し、議論する場を活性化します。信学会会員以外の方や若手の研究者にも気軽に参加してもらえらる仕組みを検討していきます。HCG が皆様の研究を推進する場となるよう、運営委員会のメンバーと協力し活動を行っていききたいと思います。

今年の HCG シンポジウム 2022 は 12 月にハイブリッド開催です。香川県高松市のサンポート高松で久しぶりに対面での議論を行うことも予定しています

(詳しくは本ニューズレター3 つ目の記事をご覧ください)。様々な分野の方が参加されますので、今までに参加したことのない方も、ぜひご参加ください。

最後に、HCG 登録のお願いです。電子情報通信学会会員の皆様は、追加料金なしで HCG にご登録いただけます。マイページにログインいただいで登録いただければ、HCG のニューズレターや各種案内をお送りいたします。もし、身近に HCG に登録されていない方がいらっしゃれば、お知らせしていただくと幸いです。

=====

FIT2022(第 21 回情報科学フォーラム) 開催のご案内

企画幹事  
三上 弾(工学院大)

-----

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG), 情報・システムソサイエティ (ISS) と情報処理学会 (IPSJ) が共同して主催する, FIT2022 (第 21 回情報科学技術フォーラム) についてご案内いたします。

- ・会期：2022 年 9 月 13 日 (火) ~15 日 (木)
- ・会場：慶應義塾大学 矢上キャンパス (ハイブリッド開催)

2002 年から毎年開催されている本フォーラムは、IPSJ 全国大会と ISS ソサイエティ大会の流れを汲むものです。従来の学会大会の形式にとらわれない試みを新たに導入しており、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などを実現しています。FIT2022 は初の試みとしてハイブリッド形式での開催を予定しています。リアルな発表形式の良さを取り入れつつ、オンラインでの地理的な制約の無い参加も可能となります。

FIT2022 では研究発表に加えて、船井業績賞受賞記念講演、特別講演、パネル討論といった数多くの企画イベント、トップコンファレンスセッション、ラボツアーといった多彩なセッションが 3 日間に渡って繰り広げられます。船井業績賞受賞記念講演は、9 月 14 日 (水) に、受賞される杉山将氏による講演「限られた情報から精度良く：機械学習研究の更なる挑戦」を予定しています。2018 年からスタートした「トップコンファレンスセッション」は、各研究分野におけるトップレベルの国際会議や海外の学術誌で採録された論文の著者ご自身にその内容を直接ご紹介頂くという大変魅力的なセッションです。

FIT2022 では、計 59 本の研究を関連分野ごとに 11 個のセッションでご講演頂きます。他にも、以下のような情報科学技術に関する様々なテーマによる発表会・研究会企画によるイベントが開催されます。是非ご参加下さい。

**【9 月 13 日 (火)】**

- ・コンピューテーション学際研究の萌芽
- ・深層生成モデル
- ・実験室を飛び出る若手情報研究者たちの挑戦  
～参加型デザインにおける Lessons-learned～
- ・トップコンファレンス (行動認識・支援, コンピュータシステム設計およびグラフ解析, 教育学習支援とサービスコンピューティングの 3 セッション)
- ・[無料公開] AI TECH TALK
- ・[無料公開] インダストリアルセッション

**【9 月 14 日 (水)】**

- ・FIT2022 船井業績賞受賞記念講演  
「限られた情報から精度良く：機械学習研究の更なる挑戦」

- ・[特別公演] 大規模社会人アンケート調査及びクラスター分析による情報分野の社会人ニーズと学生の学びのギャップの見える化の試み
- ・IoTが拓く未来：～IoT技術が起こす近未来の社会変革とは～
- ・トップコンファレンス（コンピューティングとデータベース，コンピュータビジョン，分析とセキュリティ，グラフィックス・画像・生体情報，暗号・秘密計算・プライバシーの5セッション）
- ・[無料公開] IT情報系キャリア研究セッション
- ・[無料公開] 慶大理工情報系研究室ラボツアー

【9月15日（木）】

- ・現在進行形の個人情報保護制度改正
- ・教育DXの取り組み
- ・デジタルプラクティスライブ
- ・メタバースの社会実装とサイバーワールド
- ・トップコンファレンス（ソフトウェア理解とコンピュータアーキテクチャ，リコンフィギャラブルシステムの2セッション）
- ・[無料公開] IT情報系キャリア研究セッション
- ・[無料公開] 慶大理工情報系研究室ラボツアー

最新情報につきましては以下をご覧ください。

- ・FIT2022 公式ページ：

<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2022>

- ・FIT2022 プログラム：

<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2022/program.html>

=====

HCG シンポジウム 2022 への投稿のご案内

企画幹事  
三浦貴大（産総研）

-----

【HCG シンポジウム 2022 開催のご案内】

HCG シンポジウムは今年度で 20 回目を迎えます。これまでに、工学分野に加え、ヒューマンコミュニケーションに関係が深い心理学・認知科学，社会科学，生理学，デザイン学などの分野の研究者も参加しやすい，活発な議論の場を提供してきました。現在も COVID-19 の流行が続いている状況であり，多くの人達がオンラインでの各種行事の開催に慣れてきた一方で，次第にオンサイトへの回帰も国際学会を中心に行われています。この状況を鑑みて，今年の HCG シンポジウムは，昨年・一昨年の知見を活かしつつも現地開催の良い点との融合を試みようとして，ハイブリッド開催での準備を進めております。ぜひ，この機会にご投稿，ご参加を心からお待ちしております。

【開催案内】

会場：サンポート高松（香川県高松市）およびオンライン

会期：2022 年 12 月 14 日（水）～2022 年 12 月 17 日（金）

発表申込開始：8 月上旬（予定）

発表申込締切：9 月 22 日（木）23:59 JST（予定）

発表原稿締切：10 月 28 日（金）23:59 JST（予定）

予稿集公知：12 月 7 日（水）（予定）

【副題】

「リアル・バーチャルが響き合うヒューマンコミュニケーション」（仮）

COVID-19 の世界的流行の煽りを受けて、2020 年および 2021 年の HCG シンポジウムはオンライン開催となりました。対面での直接的コミュニケーションが制限された状況にも関わらず、私達は「時空を超えて思いを伝えるコミュニケーション」や「新様式でかわりゆく・かわらないヒューマンコミュニケーション」のノウハウを蓄積し、もはやオンラインコミュニケーションは日常となっています。一方で、COVID-19 の度々の流行にも関わらず、私達のリアルなコミュニケーションに対する渴望は未だ失われていません。実際に、国際的な学術会議を中心に、オンサイト開催に戻すケースが増えてきました。今はまさに、リアルコミュニケーションの美点を再考しつつも、新時代のヒューマンコミュニケーションを確立するための遷移期であるとも考えられます。以上の状況を鑑み、オンライン・オンサイトでの実施形式を混合したハイブリッド形式にて、「リアル・バーチャルが響き合うヒューマンコミュニケーション」と題し、ヒューマンコミュニケーションシンポジウム 2022 を開催します。

#### 【企画】

- ・招待講演：調整中
- ・チュートリアル講演：調整中
- ・特集テーマセッション：企画募集中（昨年度に実施したセッション：ソーシャル・インタラクティブ、食メディア、ロケーション・インフォマティクス、視覚障害者支援と人間拡張）
- ・特別企画セッション：企画募集中

#### 【懇親会会場】

会場：オンライン

日時：12月16日(木)夜（予定）

---

#### 研究会活動紹介（VNV）

VNV 委員長

湯浅 将英（湘南工科大学）

---

ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション（VNV）研究会は、2005年10月に電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）内に設立された研究会／運営委員会で、HCGの中で長く続く研究会になっています。

VNV 設立当初からの目標は「言語情報と非言語情報の効果的な統合に基づく、人間＝コンピュータ間コミュニケーションの円滑化技術の開発、およびコミュニケーション・モデルの構築」です（設立時の趣旨書より）。この目標の達成のためには、様々な分野の研究者との議論が重要と考えています。VNV が開催する研究会・大会は（コロナ禍の年は開催の回数が減ってしまいましたが）、年間 4～5 回程度の定例研究会、および年 1 回の年次大会の開催を目標にしています。定例会では毎回 1 名程度の話者をお呼びし、十分な時間（3～4 時間程度）をとり、話者提供者と参加者間にて濃密に議論をしています。発表者による一方向的な情報提供という形は避け、参加者同士も相互に自由にディスカッションを展開していくやり方を VNV の最大の特色としています。

年次大会では、設定するテーマに沿った数件の話者提供や外部講師による招待講演、パネルディスカッションなどを柔軟に構成し開催しています。近年に開催した年次大会で特徴的だったテーマとしては「言語・非言語コミュニケーション研究の本音と建前（2019 年）」があり、この大会では各分野の研究者が順次発表する形式としつつ研究者同士が本音を語り合う場としました。

